

ベトナム報告書

鶴岡工業高等専門学校 准教授 加藤 健太郎

内地研究員の加藤です。今回小林春夫先生のお計らいによりベトナムで開催されましたICDV2013に参加させていただきました。ICDV2013は、IEICEが主催のLSIの回路設計、検証に関する国際会議であり毎年ベトナムで開催されているそうです。専門がLSIテストということもあり設計関連の国際会議への参加は初めてです。テスト関連の学会もアジアで頻繁に開催されるのですが、ベトナムで開催されたことはなく、初めてのベトナム訪問の運びとなりました。

ベトナムは、国民の平均年齢が低く、賃金も安く、人の気質も比較的日本に近いということであり、国内の製造業がベトナムに製造の拠点をシフトしているという話を耳にしておりました。実は製造業で働く知人も何人かベトナムへ長期出張しております。今回は学会参加だけでなく、ホーチミン市内の大学、日系企業、外資系企業などを訪問させていただけるという事ですので、ベトナムを知る良い機会であると大変楽しみにしておりました。

大学訪問

今回の訪問では、ホーチミン市内の大学2校（ホーチミン工科大学、ホーチミン技術師範大学）です。どちらも大変な歓迎をいただき非常に印象深かったのですが、特に印象に残っていたのは。広い校内、手厚い歓迎などが印象的でしたが、特に印象に残ったのはホーチミン工科大学のProf. Cuong Huynh氏の研究公演と、ホーチミン技術師範大学の先生方とのディスカッションでした。どちらも御講演、御説明において大変な熱意を感じました。



企業訪問

企業訪問ではタントゥアン輸出加工区においてRVC、TTCを、サイゴンハイテクパークにあるベトナム日本電産サーボ会社を訪問しました。RVCは、ルネサスエレクトロニクス株式会社の海外設計拠点、TTCは輸出加工区の開発会社、日本電産は代表的な日系会社と

いうこともあり、それぞれ特徴があり興味深くお話しをいただきました。



学会参加

学会では、発表、参加者とも日本からの方とベトナムの方が多く、大体半々といったところでした。群馬大学からは11件の発表があり、発表件数において飛びぬけておりました。みなさんよく練習されたようでしっかり発表されていました。全体的に学会のレベル、研究のレベル、どちらも日本に肩を並べるというベトナム主催者側の熱意を感じました。パンケットにもそれが表れており、非常に質の高いものではなかったかと思えます。



今回ベトナムを訪問させていただきましたが、平均年齢が若いということもあり、ホーチミンの街全体が、非常に活気があるという印象を受けました。ベトナムの近代化は、外資の巨額の投資により非常に短期間で発展しております。日本の戦後からこれまでの近代化をわずか十数年で行っているという感がありました。今後、社会、産業、教育などがどのように発展していくのか注目していきたいと思っています。